

第2次ちば文化振興計画 平成30年度実施報告（総括）

＜基本的な考え方＞

「第2次ちば文化振興計画」では、基本目標、5つの施策の柱、20の施策の展開及び指標を次のとおり定めています。

基本目標	施策の柱	施策の展開
ちば文化の創造と千葉県民のアイデンティティの醸成でつくる心豊かな県民生活と活力ある千葉県	1 文化芸術を鑑賞・参加・創造する環境づくり ～あらゆる人々が文化芸術を享受するために～	① 県民の自主的な文化芸術活動の促進
		② 様々な場における文化芸術にふれ親しむ機会の提供
		③ 子どもたちの文化芸術活動の充実
		④ 高齢者・障害者等の文化芸術活動の充実
	2 地域文化の保存・継承・活用による地域づくり ～あらゆる地域で地域文化が息づくために～	⑤ 伝統文化にふれる機会の提供
		⑥ 伝統文化の保存・継承、担い手の育成
		⑦ 文化財の保存整備の支援
		⑧ 文化的景観等の保全・活用
		⑨ 文化資源の活用と地域の活性化
	3 ちば文化の多様性と発信力強化による新たな価値の創出 ～多様な「ちば文化」の魅力を引き出し、発信するために～	⑩ 多様な文化の発展
		⑪ 「ちば文化」の魅力を発掘と情報の収集・提供
		⑫ 「ちば文化」の魅力を発信する文化事業の充実
	4 総合的な推進のための支援・連携体制の構築 ～「ちば文化」を支えるひとを育て、つなぐために～	⑬ 「ちば文化」を担うひとづくりの推進
		⑭ 文化のネットワークの構築
		⑮ 多様な支援体制の構築
		⑯ 文化発信拠点としての文化施設等の機能の充実
	5 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機としたちばの文化力向上 ～更なる発展に向けて～	⑰ 新しい文化と古くからの文化が織りなす「ちば文化」の世界への発信
		⑱ 障害者、高齢者、青少年、外国人等、国内外のあらゆる人々が参加・交流できる機会の創出
		⑲ 観光等様々な分野との連携による文化資源の活用
		⑳ 文化プログラム関連イベントの実施により得られた資源の活用

指標	現状 (平成26年度)	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	目標 (令和2年度)
この1年間に文化芸術にふれた県民の割合	65.4%	63.4%	59.1%	59.9%	70.0%

<柱ごとの施策の展開>

1 文化芸術を鑑賞・参加・創造する環境づくり ～あらゆる人々が文化芸術を享受するために～

<県の取組>

実施状況
<p>県民・関係団体・市町村などと連携して、「千葉・県民芸術祭」を29事業、「さわやかちば県民プラザ事業」では、県民プラザコンサートや東葛飾文化祭等を実施し、県民による自主的な文化芸術活動への参加の機会を提供しました。また「県民芸術劇場公演」を県内ホール・私立学校等で37公演行ったほか、美術館や博物館では千葉県の歴史・美術・自然に関する展覧会を行い、文化芸術にふれ親しめる環境をつくりました。</p> <p>さらに、児童・生徒が取り組む「千葉県歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」、「千葉県環境月間ポスター」等の各種ポスターコンクール、特別支援学校にプロのオーケストラを派遣する「特別支援学校 巡回コンサート」、障害のある方が音楽や演劇等の発表を行う「さわやか芸能発表会」、高齢者の社会活動を支援する生涯大学校における文化講座等、あらゆる人が、県内各地の様々な分野において文化芸術にふれ親しむ機会を提供しました。</p>
成果、課題、今後の方向性
<p>より多くの県民が文化芸術にふれ親しむためには、展覧会・コンサートの内容を県民の関心が高い分野や本県の魅力が図れる分野にすること、事業について効果的な情報発信を行うことが必要です。また、多くの人が集まりやすい場所・時期で公演・展示をすることや、新規団体と連携し文化事業を行うことで、新たに文化芸術にふれる県民も増えてくると予想されます。</p> <p>県民が主体的に文化芸術活動に取り組むために、県主催の事業だけではなく文化団体が自発的に運営を行えるよう支援することや、企画立案時から積極的に県民が参加できる体制づくりなどを検討することが重要です。</p> <p>今後も、文化芸術活動を行う人々の自主性や創造性が十分尊重されるとともに、いつでも、どこでも、誰もが等しく文化芸術にふれ親しみ、鑑賞し、参加し、創造することができるような機会を提供していきます。</p>

<計画の成果指標>

目標項目	現状 (平成22年度)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	目標 (令和2年度)
文化会館・美術館・博物館の入館者数	約330万人	3,499,748人	4,048,532人	4,266,706人	増加を目指す
学校における文化芸術活動の取組事例	<p>県内の各市町村において、音楽や舞台の鑑賞、美術の鑑賞やワークショップ、郷土芸能の体験、児童の作品展等の事業が実施されていました。その中で、文化施設を活用した鑑賞教室の実施や無形民俗文化財の指導を通じた体験教室の実施など、市町村が持つ文化資源を活用している事例が見られました。</p> <p><取組事例></p> <p>【千葉市（未来への夢を育む音楽教育体験教室）】 市内小中学校の体育館等に、邦楽、能楽、声楽、オーケストラの演奏家を招いて、体験教室と鑑賞会を実施。(オーケストラ：5校 邦楽：10校、能楽：4校 声楽：7校 計26校)</p> <p>【印西市（小学校芸術鑑賞教室）】 市内小学校6年生を対象に、日本の伝統芸能鑑賞教室を実施。</p> <p>【長南町（大学との連携事業）】 町と包括連携協定を結んでいる東京家政大学との交流事業の一環として行われている同大との連携授業において、30年度は絵画を立体的に鑑賞できるソフトウェアを使って、図工の観賞事業を行った。</p>				

2 地域文化の保存・継承・活用による地域づくり

～あらゆる地域で地域文化が息づくために～

<県の取組>

実施状況
<p>本県の貴重な財産として次世代へと継承していくために、伝統文化や文化財の保存事業である「文化財保存整備助成事業」として、国指定文化財6件、県指定文化財8件の保存整備を行ったほか、「埋蔵文化財緊急調査助成」として24市町に対する発掘調査等の助成などを実施しました。</p> <p>また、伝統芸能にふれる機会を提供するため、県内の民俗芸能を紹介する「房総の郷土芸能」、房総のむらにおける伝統文化等の体験事業、小学校へ能楽や雅楽、三曲の実演家を派遣し体験を通しながら伝統文化を学ぶ「ふれあい体験事業」を行いました。</p> <p>地域文化の活用の取組としては、文化資源の情報をホームページで掲載し、映画等のロケーション誘致により地域の知名度向上や観客の誘致等を図る「千葉県フィルムコミッション運営事業」や、「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」について、情報発信や人材育成を行い国内外へ効果的に情報発信する「日本遺産魅力発信推進事業」などを実施しました。</p>
成果、課題、今後の方向性
<p>伝統文化や文化財の保存・継承、担い手の継承を考える上で大切なことは、県民が伝統文化への関心を大きく持つことです。そのためには、より多くの県民に対して伝統文化にふれる機会を提供することが必要になってきます。テーマや内容、実施形態等を工夫することによって、伝統文化を知ってもらえると考えられます。地域の伝統文化や文化財に対する関心が増えることにより、県民の郷土愛が生まれ、より保存や継承が進んでいきます。</p> <p>地域文化活用に向け、引き続きこれらの文化資源をまちづくりや観光、産業振興等に絡めながら活用していきます。</p>

<計画の成果指標>

目標項目	現状 (平成26年度)	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	目標 (令和2年度)
県立文化会館・美術館・博物館における伝統文化体験事業の参加者数	約3,500人	4,473人	6,001人	7,374人	増加を目指す
市町村等における文化資源を活用した取組事例	<p>地域の文化資源を観光資源として活用している事例のほか、文化財と美術や音楽とのコラボレーションや地域の子どもたちが参加できる事業につなげるなど、地域の特性を生かした様々な取組が行われています。</p> <p>文化芸術を身近に感じる機会になるとともに、地域にある文化財や地域の良さを再発見する機会になっていると思われまます。</p> <p><取組事例></p> <p>【市川市】 文化資源の活用として「文化の街かど回遊マップ」を市内4エリアについて作成し、各文化施設や観光案内所などを通じて配布をしている。 また、20世紀の日本を代表する日本画家、東山魁夷が生涯の大半を過ごしたゆかりの地である市川市として、東山魁夷記念館を設置し、「人間・東山魁夷」をコンセプトに、資料展示と作品展示を通してその偉大な業績を顕彰し、情報を発信している。</p> <p>【酒々井町（本佐倉城跡）】 観光拠点のひとつとして位置づけられるように、トイレ・ボランティアガイド詰所・駐車場等の便益施設の整備を継続して実施。本佐倉城・千葉氏の歴史を題材とした「酒々井・千葉氏まつり」をH28より実施。</p> <p>【富津市（第二海堡）】 平成31年3月24日に富津発での見学クルーズを開催。近代の遺跡を活用。</p>				

3 ちば文化の多様性と発信力強化による新たな価値の創出

～多様な「ちば文化」の魅力を引き出し、発信するために～

<県の取組>

実施状況
<p>千葉県民としての意識を醸成し、県民が千葉県に対する愛着や誇りを一層感じられるよう、6月15日の県民の日を中心に、「県民の日ちばワクワクフェスタ 2018」を幕張メッセで開催しました。千葉の特産品、文化体験コーナーを設け、参加者にちば文化の魅力を発信しました。また大分県で行われた国民文化祭へ県内6つの文化団体を派遣し、県外へのちば文化の発信も行いました。</p> <p>県のホームページ内の「ちば文化交流ボックス」では、千葉県の文化資源やイベント情報を随時更新し、発信しました。</p>
成果、課題、今後の方向性
<p>ちば文化の発信については、県民の日行事の開催や国民文化祭への派遣を継続的に行うこと、インターネットを活用した広報活動を行うことで、発信力を高めていきます。発信力のさらなる向上のため、発信する情報の精査、積極的な広報の実施のほか、新規団体の参画を促すことが必要です。また、「若者の文化芸術活動育成支援事業」のように補助金を交付して活動を支援することや、ヤングパワームーブメントのように若者の活動の成果を発表する場を提供していくことで、多様な文化の発展を支援します。古くからの文化と、新たな創造活動をどちらも尊重し、国内外へ発信することにより、地域の魅力を再発見するきっかけを提供していきます。</p>

<計画の成果指標>

目標項目	現状 (過去5年間の の平均値)	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	目標 (令和2年度)
「ちば文化交流ボックス」へのアクセス件数	約20万件	579,268件	514,130件	731,532件	増加を目指す
多様な文化や創造活動への市町村等の取組事例	<p>多様な文化の創造につながる可能性を秘めている若手アーティスト等の取組や創造活動に対する市町村の取組状況については、発表の場、活動場所を提供する方法での支援が多くなっています。</p> <p>ただし、支援する若手アーティスト等がないことなどを理由に取組をしていない市町村も多いのが現状です。</p> <p><取組事例></p> <p>【船橋市】</p> <p>①ロビーコンサート 市役所1階ロビーにおいて、若手を中心とした音楽家の発表の場及び市民が気軽に音楽を楽しめる場を提供する。</p> <p>②まちかど音楽ステージ 京成船橋駅前の路上で、ストリートミュージシャンや音楽家が演奏できる公認ステージを設け、活動場所の提供により地域に根ざした音楽家の支援を行う。</p> <p>【佐倉市（スタジオの無料貸出とライブイベント会場の提供）】 佐倉市ヤングプラザのスタジオ（多目的自室）練習と同プラザ内ライブイベントの開催</p> <p>【茂原市（もばら若い芽のコンサート）】 市内や近隣在住・出身の若手音楽家を中心としたコンサートを実施。</p> <p>【浦安市（街頭パフォーマーライセンス制度）】 音楽、ダンス、演劇などの文化・芸術活動を通して、まちのにぎわい創出や魅力向上のため市が認定したパフォーマーの活動の場を提供する。</p>				

4 総合的な推進のための支援・連携体制の構築

～「ちば文化」を支えるひとを育て、つなぐために～

<県の取組>

実施状況
<p>県内の文化振興を推進していくために、県、市町村、文化芸術団体等の交流や連携を強化しました。県と市町村、文化施設の運営者なども参加した「公立文化施設担当者研修会」では、公共ホールを取り巻く近年の動向をテーマにした講演を行いました。また、文化活動ボランティアネットワークでは、依頼者と文化活動ボランティアをつなぎ、高齢者施設での演奏会など、125件の依頼がありました。</p> <p>県内の文化団体の文化芸術活動を活性化させるために、公演や展覧会等の行事に対して122件の後援名義の使用承認を行いました。</p>
成果、課題、今後の方向性
<p>地域の文化芸術活動を企画・運営していく人材、郷土芸能を担う人材の育成を行うため、それを支えるネットワークづくりを今後も継続して取り組んでいきます。また新たなつながりや既存の枠にとらわれない様々なつながりにより、広く関係機関等との連携を図り、情報交換や総合的な文化振興施策の推進につなげます。</p>

<計画の成果指標>

目標項目	現状 (平成26年度)	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	目標 (令和2年度)
地域との連携等を目的とした意見交換の場を設けている文化会館の割合	33.3%	30.2%	30.6%	45.0%	50.0%
福祉・観光・産業分野等での文化芸術の活用事例	<p>市町村での事例の中で、福祉・観光・産業分野でのそれぞれの事例がありました。外国人観光客を視野に入れた事例のほか、留学生や海外の姉妹都市からの訪問者との交流を図る事例もありました。</p> <p>地域文化を積極的に活用している事例が多く挙げられる一方、取組のない地域もあることから、他地域の事例を紹介することにより、新たな取組につながるよう、情報提供・共有していきたいと考えています。</p> <p><取組事例></p> <p>【匝瑳市】 踊り・コーラスのグループや伝統文化団体が、老人福祉施設や障害者施設等に慰問し、日ごろの練習成果を披露。施設内でのデイケアの一環で、手芸や切り絵、短歌などの創作活動がボランティアの協力により行われている。</p> <p>【富里市（JAZZ FESTIVAL in とみさと）】 千葉県立富里高等学校ジャズオーケストラ部「ザ・マッド・ハッターズ」を中心に、アメリカの高校生やジャズバンドが共演して演奏会を行っている。</p> <p>【野田市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊・滞在型観光推進事業補助金を活用し、野田の魅力ある観光名所等をわかりやすくまとめた観光ガイドブックを作成。しょうゆ醸造業や関宿藩の歴史を背景にした名所・旧跡など見どころを紹介。 ・野田市観光協会の協力のもと、モニターツアーを実施し、周遊コースを検討。歴史、しょうゆ文化満喫コース等4つのコースを企画し、観光ガイドブックに掲載。 ・野田市観光協会「醤油醸造業に関連した街並み」や「関宿藩と関宿城」などの街歩きツアーを実施。 				

5 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を契機としたちばの文化力向上 ～更なる発展に向けて～

<県の取組>

実施状況
<p>競技会場となる開催県として、「千葉・県民音楽祭」、「次世代に残したいと思う『ちば文化資産』選定・PR事業」など、県内の文化芸術活動を牽引するようなシンボリックな事業を実施し、文化的魅力を県内外に発信しました。</p> <p>また、オリンピック・パラリンピックに向けた機運を醸成するため、文化プログラムの申請や周知を推進しました。文化プログラムの申請では県が主催・共催するイベント14事業において、公認文化オリンピアドの認証を受け実施しました。県内市町村が行う文化イベントを側面から支援するため、市町村向けの会議を開き、応援プログラムやbeyond2020プログラムについての周知を行いました。</p>
成果、課題、今後の方向性
<p>市町村の文化プログラムやbeyondの周知が低いことから、HPや会議等を通じて県関係部局・市町村・県内文化団体・経済団体等に継続的に周知を行うこと、文化プログラムへの申請を促すことを積極的に行い、千葉県全体で、大会までの雰囲気盛り上げていくことが大切です。</p> <p>また、本県が誇る音楽文化や伝統文化などの文化資源を活用し、ちばの魅力を国内外へ発信するとともに、国内外のあらゆる人々が参加・交流できる機会を創出するため、関係機関等と連携して、文化プログラム関連イベントを実施していきます。</p>

<計画の成果指標>

目標項目	現状 (平成28年度)	平成29年度	平成30年度	目標 (令和2年度)
千葉県での「公認文化オリンピアド」に参加したアーティストの人数(累計)	380人	18,525人	36,341人	増加を目指す
千葉県内での文化プログラムの参加者からの「ちば文化」の魅力についての意見	<p>平成28年度は、文化プログラムの本格実施前のため、実施件数も多くありませんでしたが、平成29年度からは件数も伸び、大会開催に向けて機運醸成が図られてきていると考えています。様々な文化プログラムが開催されたことで、音楽等が盛んな本県の文化的魅力が発信され、参加者にも伝えることができていると考えています。今後、さらに各地域の様々な主体を取り込み、多様な文化を発信できるよう働きかけていきます。</p> <p><参加者からの意見> 【平成30年度千葉・県民音楽祭】 ※抜粋 ○「私は将来プロのフルート奏者になるのが夢で、今回初めてプロの方と演奏させていただき、本当にうれしかったです。私はなかなか上手に演奏できませんでしたが、千葉交響楽団の先生方がとても的確でわかりやすい指導をしてくださり、たくさんのことを学ばせてもらいいい機会になりました。私はプロの方と演奏出来て、一生の思い出になりました。」(一般公募の楽器演奏者) ○「貴重な機会をいただき本当に感謝しております。保護者の方もお子さんの成長に涙をながしていらっしゃいました。生徒たちはステージに立つ喜び、充実感を知り、演奏会後の振り返りでは『来年も音楽部つづきたい』と話す子が増えました。」(一般公募のチャレンジドステージ出演団体) 【平成30年度千葉・県民芸術祭「中央行事」】 ※抜粋 ○「日頃各地域でご活躍されているご様子を見せて頂き、とても楽しんで感動をいっぱいいただきました。」(観客)</p>			